

舞鶴ふるさと発見館

舞鶴市郷土資料館だより

★舞鶴市内の学生は入館無料です★



城下町コーナーで吉原地区を特集

西地区の吉原地区は吉原入江を中心とした「獵師（漁師）町」★の町並みが有名で、「東洋のベネツィア」と呼ばれています。この度、この町並みを将来にわたって保存していこうと国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定されることが決まりました。これを記念して、城下町コーナーでは吉原地区の様々な顔をミニ企画として展示いたします。

★ 獵師町...城下町につくられた漁師の町

吉原地区、

重要伝統的建造物群保存地区に

文化審議会が答申！



ミュージアム
トーク

11/23 (月祝)

13:30～14:30

吉原地区の
魅力について



展示室にて実施

★参加費無料

★前日までに郷土資料館 (75-8836) へ
または 上のQRコードから



傘鉾

さらに11月3日には、4年に1度の吉原の太刀振（裏面で紹介）が奉納されます。その祭礼行列の先頭を行く傘鉾や江戸時代の祭礼を描いた「朝代神社祭礼絵巻」などいろいろな顔を持つ吉原を特集します。

初公開

田辺城下町移転図



「獵師町」吉原地区は細川幽斎の町作りに端を発します。城下の北の端の海に面した場所に位置しましたが、享保12(1727)年、城下町の大火で現在地へ移転しました。その理由には「吉原の住人が出火元だったため移転させられた」とする説もありましたが、2022年に発見された城下町図によって実は**火災の延焼を防ぐための空き地を確保するために計画的に移転が行われた**公算が大きいことがわかりました。重伝建選定を記念し、その絵図を初公開します。

糸井文庫コーナー 11月のテーマ

刀がきらり

糸井文庫は丹後一円の資料を集めており、中でも丹後の伝説関連の資料が豊富です。このコーナーでは毎月テーマを決めて浮世絵を紹介しています。

今月のテーマは吉原の太刀振に合わせて「刀がきらり」です。右の浮世絵は3枚続きの内の1枚です。月夜に牛の皮をかぶった鬼童丸が源頼光の前にぬっと現れる場面です。



「笛澄月白浪」部分 豊原国周 明治8年 糸井文庫



たちふり 吉原の太刀振

舞鶴市指定文化財
京都府登録無形民俗文化財

吉原の太刀振は、現在は4年に1度、朝代神社の秋季例大祭などで奉納されています。かつて舞鶴市域の村々で盛んに行われた太刀振（振物）の中でも特に形がよく整っており、1968（昭和43）年に舞鶴市指定文化財に指定され、1989（平成1）年には京都府登録無形民俗文化財となりました。

★西舞鶴駅から徒歩10分★



舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）

開館時間 9:00～17:00（最終入館16:30まで）

今月の休館日

2日（月）・4日（水）・9日（月）・16日（月）・24日（火）・
25日（水）・30日（月）

〒624-0853

舞鶴市字南田辺1番地

西総合会館 1F北側

TEL 0773-75-8836 FAX 0773-77-1314

入館料

大人 100円

舞鶴市外の学生
50円

★舞鶴市内に居住または通学する学生は入館無料です★